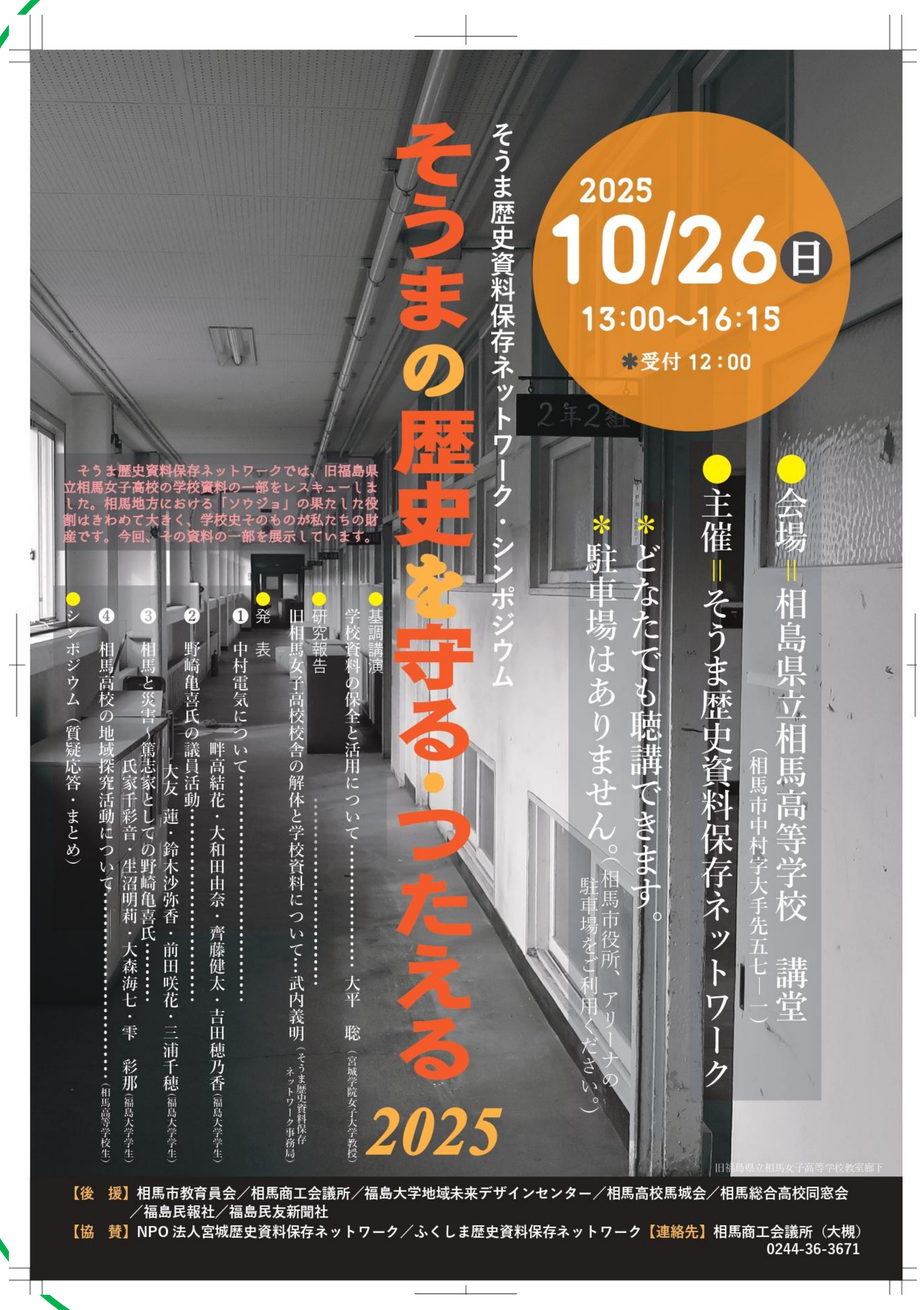
そうま歴史資料保存ネットワーク

福島県相馬市の市民主体のネットワークです。

民間に残る歴史資料のレスキュー・研究を行っています。



福島県の「そうま歴史資料保存ネットワーク」です。福島県相馬地方は１４年前の東日本大震災、その後２年続きの福島県沖地震、水害によって歴史ある建物の解体が進み、歴史ある街並みは失われつつあります。公費解体が一段階した現在、かつての市街地には更地・空き地が目立つようになっています。地域の危機にあたって、有志が声をあげ、民間団体として立ち上げたのが「そうま歴史資料保存ネットワーク」です。「ふくしまネット」「宮城ネット」の援助を受けながら活動を続け４年目を迎えました。

10月26日に「第3回シンポジウム　そうまの歴史を守る・つたえる2025」を開催しました。

シンポジウム2025のテーマは「学校資料の保存」でした。

福島県内も少子化の影響を受けて、小中学校、高校の統合や閉鎖が続いています。学校の歴史は地域の歴史でもあります。相馬市内にあった「相馬女子高校」は旧制高等女学校の流れをくむ伝統校でしたが統合や校名変更があり、ついに２０２５年旧校舎も解体になりました。この機会に相馬女子高校校舎の果たした役割を確認し、市民の皆さんと共有しました。宮城学院女子大学の大平教授から、宮城県内の学校資料の保存・活用の事例を教えていただきました。学校資料の大切さを確認する機会となりました。

原発事故によって避難を余儀なくされた双葉郡浪江町の津島地区の現状を視察しました。江戸時代から続く伝統的な家屋が「公費解体」によって姿を消しています。自費で保存するのか、公費でかいたいするのか、苦しい選択です。

地元の相馬高校の「総合的な探究の時間」、福島大学生との連携を進めています。相馬市の旧家野崎家からレスキューした資料を使った福島大学生の成果発表を支援しています。

相馬女子高校の卒業生は地元に多く、校舎はシンボル的な存在でした。校舎に残された資料は戦前・戦後にまたがる地域の女子教育の姿を伝える貴重なものばかりです。写真は昭和20年の「教務日誌」です。ネットの悩みは資料の保管場所です。行政に協力を求めています。